

岐阜県畜産ブランドを名古屋でPR

平成28年1月26日から2月5日まで東海農政局「消費者の部屋」に於いて畜産研究所の研究成果を特別展示しました。これは消費者と農林水産行政との対話交流を図ることを目的に、東海農政局で取り組まれているものです。「飛騨牛」「岐阜県産牛乳」「ポーノポークぎふ」「奥美濃古地鶏」といった岐阜県畜産ブランド産品振興への取組の紹介、各家畜への飼料用米給与技術や雌の受精卵移植による高能力乳用牛の生産技術等について、パネルを中心に展示しました。

また、2月6日にはオアシス21オーガニックファーム朝市村の一角にパネルの一部を出向展示しました。大勢の方が朝市村へ来村された中、多数の消費者の方が当研究所の展示パネルをご覧になり、質問も多く受けました。ブランド産品や研究成果を消費者の皆さんへ紹介する良い機会となりました。



「若白清」号の枝肉研究会を開催

【飛騨牛研究部】

平成28年3月17日に飛騨ミート農業協同組合連合会に於いて、「若白清」号の枝肉研究会を開催しました。

当日展示した計12頭(雌3頭、去勢9頭)の主な枝肉成績は平均出荷月齢27.9ヶ月、枝肉重量445.9kg、ロース芯面積52.3cm²、BMSNo.6.9、BCSNo.4.1、5等級率42%および4・5等級率83%という結果でした。なお、枝肉成績の詳細は畜産研究所のホームページに掲載しておりますので御覧ください。

さて、岐阜県では種雄牛の造成を確実かつ効率的に実施するため和牛種雄牛産肉能力検定法の「直接検定法」及び「現場後代検定法」を実施しています。

「直接検定法」では、種雄牛候補として県内から選抜された10頭の雄子牛の発育能力や飼料効率等を調査し、これら10頭の中から「待機種雄牛」として3頭を選抜します。「現場後代検定法」では、この3頭を先行交配することによって生産された産子(調査牛)を肥育して発育状況や枝肉成績等を調査し、その結果を踏まえて種雄牛として選抜が実施されます。これら調査牛の枝肉を確認して、その待機種雄牛が持つ産肉能力等を生産者ならびに関係者の皆さんと評価、検討する場が「枝肉研究会」です。長い年月と多くの方々の御協力によって造成される種雄牛の能力を確認し、今後とも有効に利用していただくため、枝肉研究会に是非御参加ください。



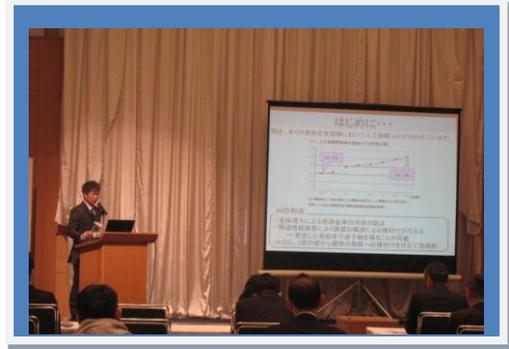
<平成28年度の枝肉研究会開催予定>

- | | | | |
|----------|--------|--------|----------------|
| 平成28年11月 | 「孝隆平」号 | (父系三代祖 | 白清85の3-安晴王-安平) |
| 平成29年1月 | 「慶清福」号 | (父系三代祖 | 白清85の3-光平福-福桜) |
| 平成29年3月 | 「景鶴7」号 | (父系三代祖 | 白清85の3-景平勝-安福) |

養豚に関する研究成果報告会を開催し、養豚生産者と情報交換

【養豚・養鶏研究部】

平成28年3月11日にホテルグランヴェール岐山に於いて、養豚に関する研究成果報告会を開催しました。「豚の精液性状に影響する要因について家畜人工授精事業のデータからわかること」と題して当研究部で行っている豚の家畜人工授精用精液の供給事業における精液性状に関するデータを用いた解析結果について発表しました。採精日に近い時期の気温、特に20日前までの気温が精液性状に強い影響を与える可能性があることから、6月頃から暑熱対策を検討する必要があること、ワクチンによるストレスも精液性状への一過性の影響が認められることなどを報告しました。今後とも養豚生産者の皆様とコミュニケーションを図りながら、より良質の精液を安定的に供給していきます。



食肉流通業者と豚肉質改良について意見交換

【養豚・養鶏研究部】

平成28年3月16日に高山市に於いて、「ボノポークを語る会(主催:ボノポーク銘柄推進協議会)」が開催されました。そのなかで、当研究部で開発した種豚「ボノブラウン」と民間飼料メーカーとの共同研究で開発した「肉質を改良する飼料」を組み合わせて生産した良質豚肉の特徴と今後の肉質改良へ向けた研究展開について発表しました。引き続き、飛騨地域の食肉流通業者の方々との今後の生産量の見込み、消費者の評価および今後の肉質改良への要望などに関する意見交換を行いました。生産者および食肉流通業者の皆様との連携下で、消費者に喜んでいただける豚肉を生産する技術開発を行います。

岐阜大学との連携推進

【養豚・養鶏研究部 関試験地】

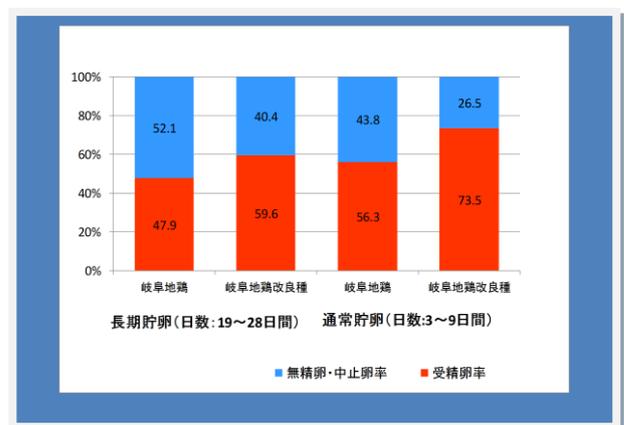
平成28年2月17日に岐阜大学応用生物科学部に於いて、「家禽衛生学(養鶏)」の講義を行いました。午前中は、日本における鶏の歴史、卵用鶏と肉用鶏、鶏の飼養管理及び鶏の衛生について、午後は、鶏の病気及びネズミ対策等について講義をしました。その他に養豚・養鶏研究部 関試験地の紹介も行い、卵用および肉用の奥美濃古地鶏についても説明しました。ブロイラー出荷の方法やヒナの鑑別、卵の流通及び鶏の病気の話に加え、やきとりについてのユニークな質問もあり、いつもの発表とは一味違った新鮮な雰囲気での質疑応答が行われました。

養鶏関係者に鳥インフルエンザ対策を紹介

【養豚・養鶏研究部 関試験地】

平成28年2月4日にふれあい福寿会館に於いて、平成27年度鶏病技術研修会が開催されました。そのなかで、「奥美濃古地鶏の鳥インフルエンザ防疫対策」について発表しました。鳥インフルエンザ対策として従来当所の原種鶏については、飛騨牛研究部において凍結精液にて保存しています。

また、平成26年12月に可児市で死亡野鳥から鳥インフルエンザH5N8亜型が検出された際には種卵の避難対策として、可児市から離れた飛騨牛研究部に種卵を輸送し、19～28日間にわたる長期貯卵による受精卵率への影響を検討しました。その結果「岐阜地



鶏」は5割弱、「岐阜地鶏改良種」は6割近くの受精卵率を得ました。通常、貯卵日数は14日までが受精卵率は高いとされますが、今後も長期貯卵における受精卵率を高める方法を検討していきます。

岐阜県畜産研究所

〒506-0101 高山市清見町牧ヶ洞 4393-1

Tel 0577-68-2226 Fax 0577-68-2227

ホームページ <http://www.livestock.rd.pref.gifu.lg.jp>